

演題名	しおさいにおける科学的介護情報システム(LIFE)活用に伴う加算の算定		
施設名	介護老人保健施設しおさい	(ふりがな) 発表者(職種)	やまもと つぐや 山本 嗣也(事務)
(ふりがな) チーム名	しおさいチーム		
分類	①診断・治療・ケアの質の向上をめざすもの		
取り組種別	課題達成型		
改善しようとした 問題課題	介護現場において質の向上につながる厚労省が構築したLIFE(科学的介護情報システム)が令和3年度4月より運用が開始され、同時にLIFEの活用等が要件として含まれる加算が設けられた。質の向上を目指すため加算の算定を課題とした。		
改善の指標と その目標値	(指 標) 科学的介護推進体制加算、リハビリテーションマネジメント加算(B)口、栄養マネジメント強化加算 (目標値) 算定		
実施した対策	①情報入力作業時間の調整 ②11:30～12:30の時間調整 ③必要なデータの収集 ④書式をLIFE対応に差し替え ⑤介護記録ソフトの互換性確認		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 科学的介護推進体制加算、リハビリテーションマネジメント加算(B)口、栄養マネジメント強化加算の算定無し (実施後) 科学的介護推進体制加算、リハビリテーションマネジメント加算(B)口、栄養マネジメント強化加算の算定有り		
歯止めと 標準化	標準化 フローチャート作成 教育 LIFEの概念の勉強会開催 管理 介護報酬改定時、算定要件の確認 管理 加算算定継続の体制維持		
活動の種類 ※複数選択可	②複数の職場が連携した活動	チーム メンバー (職種)	1 山本 嗣也 事務 2 算用子 美登里 管理栄養士 3 杉山 眞由美 理学療法士 4 鈴木 孝千代 介護士
活動の場 ※複数選択可	④その他		
活動期間	令和3年4月 ～ 11月		
リーダー名 (職種)	山本 嗣也 (事務)		
活動回数	20 回		

【成功のシナリオの追求】

《成功シナリオの追及》

【対策系統図】



【成功のシナリオの実行計画】

《成功シナリオの実行計画》

対策項目	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
①情報入力時間の調整	算定要件を満たすため	鈴木	6月	通所	入力作業時間の業務調整
②ミールラウンド時間の調整	算定要件を満たすため	眞用子	6月	栄養士室	11:30~12:30のソフト調整
③基本情報の収集	算定要件を満たすため	山本眞用子	4月~6月	通所 栄養士室	必要なデータの収集
④介護記録ソフトの書式変更	算定要件を満たすため	杉山	6月	リハビリ室	書式をLIFE対応に差し替え
⑤介護記録ソフトと連携の確認	従来業務との互換性のため	奥後	6月	事務	介護記録ソフトの互換性確認

【成功のシナリオの実施①】

《①情報入力作業時間の調整》

通所

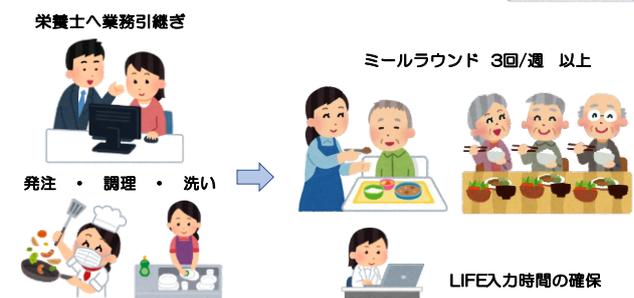


リーダー業務の時間に、入力時間の追加

【成功のシナリオの実施②】

《②11:30~12:30の時間調整》

栄養



栄養士へ業務を引き継ぎ、時間の確保

【成功のシナリオの実施③】

《③必要なデータの収集》

通所

栄養

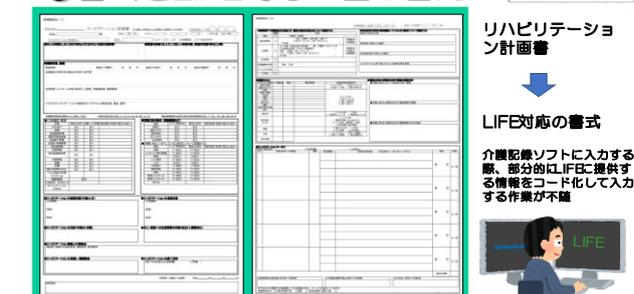


情報の追加・低栄養関連問題の把握を行う

【成功のシナリオの実施④】

《④書式をLIFE対応に差し替え》

リハビリ



既存の計画書を新たにLIFE対応の書式に変更

【成功のシナリオの実施⑤】

《⑤介護記録ソフトの互換性確認》

事務

介護記録ソフトを活用
LIFEに必要な基本情報をはじめとする介護記録を作成



従来のシステムの使用感を維持したままLIFEの加算算定に繋げることができる

CSV出力・取りこみのシミュレーション実施

【効果の確認(中間)】

《効果の確認(中間)7月》

達成率0%



科学的介護推進体制加算
リハビリテーションマネジメント加算(B) 0

栄養マネジメント強化加算

CSV出力・取込でエラー発生

7月分を入力し、プレスタートをきる

【成功のシナリオの追求】

CSV出力・取込エラーの原因は様々



厚生労働省HP科学的介護の事業連絡に必須項目確認データから外部インターフェース項目一覧（LIFE）を確認 ◎○●



【成功のシナリオの実施】

CSV出力・取込エラーの対処方法



エラーに対処できる入力期限を設定！



介護記録ソフトの入力 : 各担当者
 エラーコードの印刷 : 事務
 エラーコードの内容確認と修正の指示 : 各部門リーダー
 修正情報、取り組めない情報の入力 : 各担当者
 修正の確認 : 事務
 再度LIFEに取り込み(翌月10日) : 事務

毎月の入力は20日以内(20日以降の新規は都度入力)

【効果の確認】

《有形効果》

9月より加算算定



《波及効果》

1名につき

- 科学的介護推進体制加算 40単位/月 × 70人
- リハビリテーションマネジメント加算(B)口 33単位/月 × 52人
- 栄養マネジメント強化加算 11単位/日 × 49人

《無形効果》

グループの成長



【標準化と管理の定着】

《標準化と管理の定着》

	What (なにを)	Why (なぜ)	Who (だれが)	When (いつ)	Where (どこで)	How (どのように)
業務	フローチャート	プロセスの見える化	各メンバー	12月までに	各部署	作成する
意識	LIFEの概念	ケアの質の向上	スタッフ	随時	各部門	勉強会を開催する
機能	介護報酬改定時	算定要件の確認	事務	3年毎	事務所	確認する
	体制維持	加算算定の継続	各部門	毎月	各部門	協力・調整する

【反省と今後の進め方】

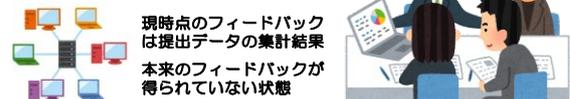
《ステップごとの反省》

ステップ	良かった点	悪かった点
テーマ選定	施設方針に基づいたテーマを選定できた	もっと早く取り掛からなくてはならないテーマだった
攻め所の明確化	ギャップを明確にして、検討できた	ギャップの表現・手法の違いが難しかった
目標設定	現場の過剰力を協議した上で、設定できた	無理のない目標設定となった
活動計画	予定通り進めることができた	途中でエラーが発生した為、予定とずれた
成功シナリオの選定	具体的な実行案を展開できた	課題や障害の予測があまかった
成功シナリオの実施	実行計画を立て、実施できた	課題が生じ、その手当を行なった
効果の確認	有形効果以外の副次効果も把握できた	まだ算定できていない項目も残されている
標準化と管理の定着	標準化・教育・管理に分けて実施できた	継続のために担当者以外の関与意識が不可欠

【今後の課題】

《今後の課題》

- ①加算項目を増やす
- ②記録入力できるスタッフの育成
- ③フィードバックの活用



LIFE フィードバック票の活用

	事業所フィードバック票	利用者フィードバック票
概要	利用者のADLや栄養、口腔機能等に関する状態を事業所・施設単位で分析し、同様の介護保険サービスを提供する他事業所・施設との比較結果や過去からの変化を把握するための帳票	ADLや栄養、口腔機能等に関する状態について、自事業所・施設の利用者個別に分析し、要介護度等が同程度の他利用者と比較結果や過去からの変化を把握するための帳票
活用目的	自事業所・施設における特性や、利用者の特徴及びケアの特性を認識し、提供するケアの改善に活かすことが可能	各利用者のケアの目標や問題点、提供しているケアや状態を把握し、提供するケアによる改善状況を評価し、必要に応じて目標やケアの見直し等を行うことが可能
活用例	<ul style="list-style-type: none"> ●自事業所・施設の利用者像の把握 ●ケアの実施状況の把握 ●ケアの結果の把握 ●ケアの在り方の見直し ●施設内の管理指標としての活用 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者像や課題の把握 ●ケアの実施状況の把握 ●ケアの結果の把握 ●利用者や家族への説明 ●職員間での情報共有

